

個別事業(取組)評価				
事業No.	3	施策の柱への位置付け	柱① 学校・学級改革	
事業名称	算数・数学学力定着事業		担当課	小中学校課
			当初予算額(千円)	3,812
			補正後予算額(千円)	-
			決算額(千円)	2,844

		当初計画	年度末点検・評価
①	現状(課題)とその要因	<p>【現状】</p> <p>全国学力・学習状況調査の結果から、本県の児童生徒の算数・数学科における学力の状況は、改善傾向にはあるが依然として全国平均を下回っている状況にある。</p> <p>【平成21年度の全国学力学習状況調査の結果】 ※全国平均との差 算数A-2.3p 算数B-2.7p 数学A-6.2p 数学B-7.2p</p> <p>【要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 単元ごとに学習内容の定着状況を把握し、その結果の事後指導や原因分析が十分ではない。 ◆ それぞれの小・中学校で毎日の授業において既習事項を活用して問題を解決するという実践が行われていない。 	<p>ア 正確に把握していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>平成21年度の全国学力・学習状況調査の結果について、経年変化も含めて分析し、本県の児童生徒の算数・数学における学力の状況を把握した。</p> <p>イ 十分に特定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 全国学力・学習状況調査の結果の分析により明らかとなった課題や要因について特定できた。 ◆ 単元テストの結果から、単元ごとの学習内容の定着が不十分であることが明らかになった。
		<ul style="list-style-type: none"> ◆ 全ての小中学校において、単元テストシステムを活用して、学習内容の定着度を把握し、事後指導を行うというサイクルを確立する。また、学習量の確保も必要であり、そこには算数・数学シートを活用していく。 ◆ 数学研修講座や授業ガイドブックの作成などを通して、授業力の向上を図る。 <p>【検証(比較)方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 単元テストシステムの活用(ダウンロード、結果の入力)及び入力された正答率の数値で検証する。 ◆ 学校改善プランの検証シートや学校訪問により授業参観を行い取組の状況を検証する。 	<p>ウ 達成可能で具体的な目標を設定していたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <p>各学校の単元テストシステムの活用率100%という目標を設定して、各学校における取組の徹底を図った。</p> <p>エ 目標は達成されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 単元テストシステムの活用率は100%となり、該当学年で身に付けるべき学力を保証していく取組ができた。 ◆ 単元テストの活用事例が数多く報告され、「活用事例集」としてまとめて、各校に配付することができた。 ◆ 【平成21年度の全国学力学習状況調査の結果】 ※全国平均との差 算数A-2.3p 算数B-2.7p 数学A-6.2p 数学B-7.2p 【平成22年度の全国学力学習状況調査の結果】 ※全国平均との差 算数A1.1p 算数B-1.1p 数学A-5.1p 数学B-6.7p 平成21年度と22年度を比較するとA問題、B問題共に向上しているが、特にA問題が向上している。(A問題→知識、B問題→活用)
③	実施内容(Input・Output)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 単元テスト問題の配信(小1~中3)と算数・数学シートの配付 ◆ 中学校の数学担当教員を対象に、数学研修講座を悉皆で開催する。その後、授業ガイドブックの作成と単元テストの見直しを行う。 	<p>オ 計画通り実施されたか (Yes <input checked="" type="checkbox"/> No <input type="checkbox"/>)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 各学校の単元テストシステムの活用率100%を達成した。また、単元テストの見直しを行い、平成23年度用の問題を作成した。 ◆ 算数・数学シートや「年度末確認テスト」を活用して、定着状況を把握し、事後指導につなげることができた。 【年度末確認テストの活用率】(3月上旬の状況) 小学校 95.6% 中学校 85.1% ◆ 数学研修講座は、数学担当教員等200名が参加して実施できた。また、公務等による欠席者5名については代替研修として2学期に授業研究を設定し、小中学校課指導主事が訪問して伝達講習及び研究協議を行った。 ◆ 授業ガイドブックを作成し、年度末にすべての公立小・中学校に配付した。

総合評価と今後の方向	目標達成度	A	「No」を選択した項目	
	【総合評価】	<p>単元テストが各学校で100%実施された。結果を入力することで児童生徒のどこに課題があるのか把握することができ、その結果から授業改善が図られるようになってきた。</p> <p>また、平成22年度の全国学力学習状況調査の結果において、特にA問題の正答率が向上していることから、基礎的な学力がしっかり身に付いてきている。</p>		
	【今後の方向】	<p>平成23年度は新学習指導要領に対応した算数・数学シートを作成し、配付を行う。また、単元テスト活用研修会を実施し、単元テストの有効な活用方法についての情報交換や協議を行い、単元テストを実施し、学習状況の定着度を点検して事後指導を行うという学習指導のサイクルを確立することで着実に学力を定着させる。</p>		